

# Fire Press

二宮町消防団広報紙

平成20年11月10日発行

Vol.6



## 消防団員なんて無理だと思っていました。

ところが、話を聞いてみると、消防団にはサラリーマンが多く、色々な職業の団員がいて、消火活動のほかに、広報活動や防災活動、応急手当の普及・指導など、いろいろな活動があることがわかりました。

消防団は、まさに地域になくってはならない存在なんです。でも消防団の活動内容があまり知られていない… だから団員の声を聞いてください。

それで、**消防団員募集！**



**第三分団による消防放水** 平成20年8月30日(土)  
二宮町総合防災訓練にて(中央会場：ラディアン裏ふれあい広場)



## 活発な消防団活動を願い 二宮町消防長 原 幸 男

本年4月、消防長に就任いたしました。その責任の重さを痛感しており、誠心誠意尽くす所存です。

消防団員の皆様は、郷土愛の精神に基づき、地域の安全安心の確保はもとより、地域コミュニティの形成にも大きな役割を果たしていることに、感謝申し上げます。

自然災害は毎年のように発生し、今年になってからも岩手・宮城内陸地震や、局地的な集中豪雨などにより、多くの方が犠牲となっています。このことは、二宮町においても他人事ではなく、常備消防の充実はもちろんのことですが、更なる消防団の充実強化も求められています。

全国的に消防団員が減少する中、二宮町にあっては、これまでの消防関係者の方々のご努力で、活発な活動と体制の維持が図られ、有り難く思っています。

町民の方々の安全安心に寄せる関心は、益々高くなってきていますので、消防団員の皆様には大変お世話になりますが、どうぞよろしく願いいたします。

平成20年度 全国統一防火標語

**火のしまつ 君がひなくて 誰がする**

## 町の安全安心自らで

二宮町消防団長 杉崎 一夫



この度、平成20年4月1日より二宮町消防団長を務めさせて頂く事となりました。「自分たちの町は自分たちで守る」という郷土愛護の理念と、あらゆる災害から安全安心を守るという崇高な使命を持った消防団の長として大きな責任と緊張を感じています。

私たち消防団員は普段は本業を持ちながら火災等災害発生時には即座に災害防除に出動し、日頃は訓練や予防広報活動等行い有事に備えています。しかし、近年団員のサラリーマン化等で新入団員の確保や日中の災害対応が心配されているのも実情です。団員の活動には休日や夜間の訓練等プライベートな時間を割かなくてはならない負担もありますが、団員相互の年齢層も近く家族ぐるみでの仲間づくりや仕事も様々で異業種交流の場にもなり「人間づくり・仲間づくり」の場として最高の団体だと確信しています。「参加したい消防団・やって良かった消防団」をより一層PRしていきたいと考えています。

そして、その活動を支えているのは地域の皆様や団員各位のご家族の深いご理解とご協力のお陰である事を心より感謝いたします。これからも「安全安心の町づくり」の一助として活動に万進してまいりますので変わらぬご理解とご協力をお願いいたします。

## 第一分団

(川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)



佐々木 達真



子供たちから尊敬されました

まず私の自己紹介からさせて頂きます。現在37歳のサラリーマンです。妻、子供3人の5人家族で、2年前に骨をうずめるつもりでこの町に引っ越してきました。地域に馴染むには、まず色々な町内行事に参加し、近隣の方々と交流を深めることが手取り早いと思いましたが、子供絡みの行事やお祭り等に参加するようになりました。何度かのイベントの際に消防団の幹部の方からお話を聞き、いつの間にか入団していました。(笑) 今までボランティア活動は経験がなくて不安でしたが、幹部の方の情熱と新

たな人間関係が築けそうな感じがし入団を決意しました。

活動してみるとサラリーマンで既婚者がほとんどで、仕事や都合で来られない方も参加を強制されることは一度もありませんでした。先輩方もやさしく分かるまで指導して下さいますし、元々、車やメカが好きなお仕事もあって、ポンプ車の運転やポンプの操作、放水までの手順等はやっていて楽しいです。何より活動してよかったのは、子供たちから尊敬され応援されることです。

## 第二分団 (上町・中町・下町)



杉崎 総一



仲間ができた 入団2年目の杉崎総一です。

地区の方にお話をいただき入団する事を決めました。誰でもそうだと思いますが、最初はとまどいや不安ばかりでしたが、分団長はじめ先輩方が優しく接してくれますし、毎月の定期訓練等、日々を重ねるにつれ徐々に環境にも慣れ、今では楽しい消防活動に参加させていただいています。

定期訓練の成果としては、今まで2件の本番火災に出動し不慣れではありましたが、消火活動をしてきました。帰り支度をしてる時に火災現場付近の住民の方々から「ご苦労様」と声をかけられた時に少しでも地域に貢献できたと思い、入団して良かったと思いましたが、普段の生活ではありえない年上の方と仲間になれた(仲間が出来た)事が何より入団して良かったと私は思います。

杉山 順平



二分団に入団して

私は、第2分団に入団してからまだ1年と少ししか経っていませんが、これまでに色々な事を教わってきました。

消防に関する事は勿論、それ以外の事も先輩がとても熱心に指導してくれます。そして、自分もそれに答えようとするのですが、これがなかなか思うようにいかない時もあり、そんな時はやはり自分自身に腹が立ったり、悔しい思いをしてしまいます。そんな時、自分をフォローしてくれるのも、やっぱり先輩であったり同期であったりするわけで、申し訳ないと思いつつも、「2分団って、やっぱり最高」なんて思ったりしちゃいます。

来年には自分も上級生になります。2分団員として技術の向上は勿論、人としても成長していきたいです。そして、新しく入ってくる人には自分がこれまでに教わってきた事を、自分が受けたのと同じ様に伝えていこうと思います。そして、町の人々の安全のために努めていきたいと思っています。

原 秀和



「今、自分に出来る事って…」考えた時に何も無かった自分にガッカリ。でも、「自分も誰かの役に立つ人間で有りたい。」

そんな自分が消防団に入団。自分には、仕事も年齢も違う2人の同期と10人の先輩。話してみると「何しろ皆消防に熱い！」自分の思いなんて何処かへ飛んで行ってしまいそうな勢いだ。良く面倒を見てくる先輩たち。

「良い感じだ。第二分団は！」この中で自分も頑張っって少しは「誰かの役に立ちたい」と思いながら1年と半年が過ぎましたが、自分を支えてくれた先輩と同期、そして家族に感謝。

原 淳利



私にとっての消防団は、「地域の関わりそのもの」です。

事実、消防団に入団する以前の私は、地域との関わりも、町内会などに対する関心も薄いものでした。しかし入団と同時に地区の役員ともなった事で、地域の活動を目にする機会が増え、私の知らない所で、近所の人々が役員として働いて下さることで、当たり前と思っていた日常は、支えられていたことを知りました。

消防団員も、仕事や家族で多忙にも関わらず、自分の時間を割き、積極的に消防活動に取り組んでいました。日常の訓練を怠らない上、よりクオリティの高い団となる為、自ら提案をし、また各々が熱意と志を持ち、かつ互いのそれを尊重し合っていたのです。

これらの新たな認識を与えてくれた消防団活動への参加は、私と地域を結びつけてくれた、大切な機会であったと思います。

### 第三分団

(元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)



家族慰安会(ディズニーランド)

### 第四分団 (中里・百合が丘1丁目)



家族慰安会(ディズニーランド)

田辺賢哉 3年間の消防団活動



早いもので入団して3年目になり、当初は判らない事も多く戸惑いがちでしたが、先輩方の優しい?指導により何とかカタチになってきました。今後は率先垂範し後輩の指導を実施していきます。

又、消防団活動を通じて色々な経験をさせて頂き本当に有難く思っております。

特に先日の【神奈川県消防操法大会】では団員一丸となり『強い絆』が生まれました。

今後も、地域皆様の安全を守る為に懸命に活動していきますので宜しくお願い致します。

### 第五分団

(一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)



第五分団

消防団員になった自分を想像してみませんか。あなたも、新しい自分、充実した毎日が見えてくるかもしれません。



仲手川 佳宏



消防活動を振りかえって

消防活動は自分にとってとても有意義な事であると思います。毎月の定期訓練では、先輩の方々の厳しい指導により出来るまで丁寧に教えていただきました。これは有事の時に安全かつ迅速に行わなければならないので体に覚え込ませるには大変でしたが、なんとか形にはなりました。また、体力不足、仕事との両立という二点がありましたが、体力的には以前より体を動かす様に心掛けていますし、両立という点では会社と家族の理解があり、出来ていると思われま。そして何より消防活動に参加することで、よその町から来た自分にとっては地域の人とふれあう事、同年代の仲間が出来る事は今後の自分の人生の財産になると思われま。改めてこの活動に参加できることに感謝したいです。

原 博之



出会いを楽しむ

消防団活動に参加して一年半がたちます。今思う事は、まず消防団に参加する事が出来てよかったなという事です。それまでは消防団がどんな活動をしているのかも知らず、まして自分が参加するなんて考えた事ありませんでした。しかし、実際に参加してみても活動していくうちに防災に対する意識や地域の活動に対する見方が少し変わって来ました。

今までは誰かがやるからいいだろうと思っていた事が誰かがやらなければいけない事なんだと思いはじめました。また参加していなければ会えなかったと思う人達と出会う事が出来た事もよかったです。まだ覚えなければいけない事もたくさんありますが、これからもいろいろな人との出会いを楽しみに活動して行きたいと思われま。

西山忠助



消防団活動に参加して

消防団に入団して早いもので3年目を迎えました。消防団に入団したきっかけは、消防団で活躍している祖父と父の姿を子供の頃に間近で見ていたことが一番のきっかけです。

消防団活動に参加して感じたことは、一人ひとりの力と15人の心をつなぐと、もの凄いパワーになるということです。自分たちの町は自分たちで守るという意識を持ち安心して住める町になるよう頑張っていきたいです。

杉本章彦



消防団活動に参加して

消防団に入団して、変わった事は、たくさんの仲間ができたこと、それと、今まで知らなかった地域の人と交流する機会が増えたこと、それと、今までは自分たちで守るという意識を持ち安心して住める町になるよう頑張っていきたいです。

初めて、火災で出動したとき、消防車の後ろに乗って現場に駆けつけるまでに声をかけてくれ、緊張している自分を落ち着かせてくれた先輩の言葉は、今でも火災のとき思い出すと、気持ちが落ち着きます。たくさんの人に大切な事や気持ちを活動を通して教わっています。

竹内伸介



放水で月1回の「ストレス解消」

私はこの4月から入団しました。なかなかの前評判ばかり聞きましたが、実際活動してみて「大変だ」とか「上下関係がきつい」と思ったことはありません。

もちろん訓練は真剣そのもので、緊張感を持ってやります。でも、趣味の集まりに消防という責任がついた程度の感じで、訓練前後の和気あいあいを楽しむのがメインです。

4月から変わったことと言えば、サイレンに敏感になったこと、仲間が増えたこと、そして地元がもっと好きになったこと以外ありません。(あ、お酒を飲む量が増えました。)正直、なんであれだけの前評判ばかり聞いたのか不思議なくらいです。今、確かに言えることは、私は五分団に入って楽しんでいるということ、少しだけ自分に自信が持てたということです。地域の役に立っているかはわかりませんが、これからも楽しみながら活動していきます。

白井善之



消防団に入って

番号!「イチ、ニ、サン、シ、シ」慣れない自分は4番の人と同時に叫んだ。毎月1度、行っている定期訓練での1コマ。最初の内はちょっと恥ずかしい失敗もしますが、ご愛敬という事で。普段何気なく見かける消防車ですが、実際に触れる機会はなかなかない事です。そのポンプ車を巧みに操作し、火事場があれば現場に駆け付け、鎮火に向け、放水や交通整理などを行うという事です。消防団に入ればスキルアップする事間違いナシですね。

# 神奈川県消防操法大会 第四分団出場 優良賞

あっぱれ

平成20年7月30日(水)、厚木市の神奈川県総合防災センターで「第46回神奈川県消防操法大会」が開催された。県内より小型ポンプ部門22チーム、ポンプ車部門10チームが参加し、タイム・技術の正確さなどを競い合う。二宮町より第四分団がポンプ車操法部門に出場した。

曇り空ではあったが蒸し暑い中、第四分団の順番となった。指揮者の『操作初め!』の号令とともに操法開始。連日連夜の特訓で培った技術、きびきびとした動き、流れるような操作から第1線放水、火点に命中。いいタイムだ。第2線延長、ここまでミスは無い。放水、火点命中。『放水止め!』『収め!』再び指揮者の声とともに終了。全てを出し尽しホツとした表情の選手達を応援に駆けつけた町長をはじめとする、議会・町内会・消防関係者・そして家族らが惜しめない拍手と笑顔で迎える中、第四分団のアツイ夏が終わった。

結果は、優良賞!! 大健闘である。これは、5名の選手は勿論のこと縁の下の力となった大勝分団長をはじめとする団員たち、それを支えた家族、鬼教官として指導に当たった町消防職員の方々、すべての人たちが手にした栄誉だ。

嵐のような約3ヶ月間、本当にお疲れさまでした。(寺山)



↓ 1線放水

2線放水 ↑



- 指揮者：西山 哲也
- 1番員：田辺 賢哉
- 2番員：杉本章彦
- 3番員：水島 正人
- 4番員：野地 剛



「操作初め!」全てはこの時のために



坂本町長の激励を受ける

## 操法大会に出場して

～15人の力が一つに～ 水島 正人



第46回神奈川県消防操法大会に第4分団としては20年ぶりに出場ということで、5月から38回の訓練を重ねてきました。私は3番員として出場させて頂きましたが、大会が近づくにつれ気温が高くなってきたこともあり、予想以上にきついものでした。また、一つ一つの動作を正確に行なわなければならず、そういった点でもかなり苦労しました。

そして、何よりも分団員15人の力を一つにするというチームワークの大切さを実感しました。6位という結果でしたが、指導して頂いた消防署の方々をはじめ、応援、サポートして頂いた方々には感謝の気持ちでいっぱいです。この操法大会で得たものを今後の消防活動に活かしていきたいと思ひます。

## 消防団員募集

「自分たちのまちは、自分たちで守ろう。」

20代・30代の男子の方で分団活動に協力してくれる方を広く募集しています。より多くの方に消防団活動を経験してもらい、地域防災の一翼を担っていただきたく願ひます。任期・活動内容等は各分団ごとにことなります。



- 公務災害補償制度
- 被服の貸与
- 退職報償金
- 表彰制度

問い合わせ  
消防本部 消防課  
☎72-0015

- 第一分団 (川匂・釜野・越地・茶屋・梅沢)
- 第二分団 (上町・中町・下町)
- 第三分団 (元町・富士見が丘1・2・3丁目・松根)
- 第四分団 (中里・百合が丘1丁目)
- 第五分団 (一色・緑が丘・百合が丘2・3丁目)

消防団は、通常は自らの仕事を持ちながら、「自分たちのまちは自分たちで守る」という郷土愛護の精神に基づき、地域の人たちのため、社会のために活躍されている人たちの集まりです。